

NPO すみれブーケでは、会員向けに「すみれレター」年2回発行しています。今回その中から記事の一部をダイジェストでご紹介いたします。



すみれレター

第3~6号
ダイジェスト

2019年6月30日

発行：特定非営利活動法人
若者の自立支援
すみれブーケ
理事長 内田 朝代
〒156-0057
東京都世田谷区上北沢
四丁目18番15-701号
TEL 070 (2152) 2147
FAX 03 (5357) 8752
電子メールアドレス
smilebouquet2014@gmail.com

★第4号から

2017年10月発行

すみれブーケは、会員のみならず、はじめ多くの方々に支えられ、設立より三年目を迎えます。一八歳になり児童養護施設から退所した若者は、その後の支援が少ない

なか過ぎさなくてはなりません。私たちは、様々な困難に立ち向かう若者たちの「実家となる居場所をつくりたい」という思いでNPO法人を立ち上げました。(略)

シェアハウス「すみれハウス」開設しました！

居場所事業のシェアハウス運営では、さらに多くの若者の居場所を設けるために世田谷区桜上水に4LDKの一軒家を賃借し、今年4月から新たなシェアハウス「すみれハウス」を開設いたしました。公的資金が得られないなか、民間の助成金である「ろうきん若者応援ファンド2017」を活用し、ハウス内の造作・備品等の整備を行いました。また、多くの皆さまからのご厚意で家具や家電、雑貨等も寄付をいただき魅力あるハウスとすることができました。現在、

入居社会人の募集、また新たな若者を受け入れる準備や面談を行っております。

一軒目のシェアハウスについては、継続して運営していく予定でございましたが、平成三〇年二月末に賃借期間が終了となり、その後の継続賃借の可能性が確定していないこと、また会員の皆様にご支援いただいている若者も定職につき自立へ向けて安定していることから、当法人としては新たに支援を必要とする若者を支えていきたいと考え、同シェアハウスを閉

鎖し、新たなシェアハウス「すみれハウス」のみの開設とすることいたしました。

◎実家としての居場所

昨年の児童福祉法の改正で自立援助ホームや施設でのアフターケアの継続が示されましたが、児童養護施設退所後の子どもへの支援が少ないなか、制度の対象外となっていて支援を受けられない若者も少なくありません。すみれブーケは、そのような制度による支援を受けられない若者を対象に、失敗したり進学後につまづいたりしても再チャレンジできる環境づくりを、シェアハウスで生活することを通じて進めています。シェアハウスでは社会人と住むことの意味を重視し、社会人やコーディネーターに相談でき、知りたいことを教えてもらえる環境、そして安心して帰れる、失敗しても戻れる実家としての居場所をつくっています。

◎啓発広報活動

多くの方々に私たちの活動を知っていただくため、「すみれブーケチャリティーショー」を今年六月一八日に開催しました。また、地域の行事に参加した際には多くの方々からたくさんのご支援と応援をいただきました。

これからもすみれブーケは若者への支援を行ってまいります。引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(理事長 内田朝代)
※すみれブーケは、現在五年目の活動を行っております。

◎コーディネーターによる家庭的なサポート

新たなシェアハウス「すみれハウス」では今年四月で四年目を迎える一人の若者が「準社会人枠」

未来を築く退所者支援を

児童養護施設「福音寮」施設長 飯田 政人

◆福音寮の特徴

児童養護施設は児童福祉法により、「保護者のない児童……、虐待

待されている児童その他環境上養護を要する児童を居所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行う」(四一条)ことを目的としている施設です。

福音寮の誕生は、一九四五(昭和二〇)年一〇月、のちに初代理事長となる堀内キンが、浅草の浅草寺の防空壕に一人でいた女子児童を上北沢の地に連れ帰ってきたことがきっかけでした。協力者を得て子どもたちといっしょに暮らす家Ⅱ養護施設の事業を始め、現在では、五七人の子どもたちが本園と六か所のグループホームに分かれて生活する施設となっています。子どもたちが社会に出て新しい生活を築くときに、一つの家庭モデルをつくりたいとの思いで、特に家庭的支援に力を注いで、本

園を含めてそれぞれのホームで献立作成から、食材購入、調理、片付けまでを行う完全調理を実施しています。

本園では、児童養護のほか、子どものショートステイ、保育園、おでかけひろば等、地域と密接にかかわる支援を行っていることも特徴の一つです。

◆施設の役割とは

厚生労働省は昨年(二〇一七年)八月に「新しい社会的養育ビジョン」を発表しました。それによると、社会的養護を必要とする子どもたちへの支援は、特別養子縁組を含む里親委託を中心とし、ケアニーズが高く、手厚い支援を必要とする子どもたちは施設等への入所としています。施設入所は乳幼児で数か月以内、学童期以降は一年以内、特別なケアを必要とする子どもであっても三年以内を指すとされています。

これが実現されるには、フォス

タリング機能や人材育成を含めた様々な制度改革が必要になります。養護施設が今までと大きく変わることにについては、慎重に対応しなければならぬと私は考えています。特に、冒頭の施設目的で述べた、施設が担ってきた自立支援の役割が、この改革の中でどこまで実行していけるかということです。

今年(二〇一八年)の正月、何人も卒園生が訪ねてきました。成人式に出席したあと振袖で挨拶にきた子ども、卒園して一〇年近く経って誘い合わせて職員の前を見に来た子どもたち、また、中学を卒業して三〇年経った人が、「この年齢になってあらためて福音寮に来てみたくなった」と近況を知らせてくれたりと、まさに家族としての付き合いがそこにあることを実感させられました。

施設に来るには必ず何かしらの理由があります。それは仕事の相談だったり、家族の話だったり、これからやりたい夢の話だったり、色々ですが、そうした子どもたちの気持ちをしっかりと受け止めていく大事さを施設職員がひしひしと感じる時です。

◆施設からの旅立ち

社会に巣立つ子どもたちにとって必要なことは、いつでも困ったときに相談にこられる場所があり、相談できる人がいることです。今年、福音寮を卒業して社会に旅立つ子どもは八人、そのうちの半数が引き続き公的支援を必要とする子どもたちです。

一方、数年前に退所し、通勤寮に入所している子どももいます。通勤寮を退所する時期が近づき、今考え悩んでいることは、長い間暮らしていたこの世田谷に戻って生活したいということでした。

数年前に、施設内で退所者調査を行ったところ、三〇歳程度までは親との関係性の薄い子ほど手厚い支援が必要との結果が明らかになっています。

児童養護施設の卒業生支援は、行政、民間含めて、様々な形で充実してきており、数年前とは格段の違いがあります。とてもありがたいことですが、やはり大事なことは、私たち施設職員がつながりをもち支援していくことです。施設で暮らす子どもたちのその時々の気持ちを受け止め、一緒に考え、活路を見出そうとした、そ

うしたつながりの積み重ねが子どもたちの自立にとって必要だからです。

退所者支援のうち、すみれパークが行っているシェアハウスは特に必要だと感じています。その場所を心をとめて、再び社会に向かつて旅立つ拠点が必要だからです。しかし、住環境の整備、支援者の確保・育成、地域・関係機関の連携とまだまだいくつもの課題があります。

◆自立支援には関係者の連携が重要

新しい社会的養育ビジョンは、家庭で子どもたちが育つことを第一義にあげています。これを実現するためには様々な機関が連携し合い、それぞれの強みを活かし、子どもたち一人ひとりが伸びやかに地域で生活できる環境を目指すことが大事です。この上北沢・桜上水地域の地においても、関係者・関係機関の連携を深め、支援者と当事者が一緒になって、夢のある未来を築いていけるよう活動すべき時だと思えます。

社会的養護を経て 進学する若者の シェアハウス生活

講演

NPO法人学生支援ハウスようこそ

理事長 庄司 洋子

児童養護施設や里親などの社会的養護を経て進学する学生を、卒業まで応援しようとしてNPO法人学生支援ハウスようこそ（以下、「ハウス」ともいいます）を始めました。シェアハウスの形で学生

すみれブーケ講演会2018

児童養護施設退所後の 若者の夢と自立をかなえる シェアハウス生活

たちに住まいと食事等生活の支援をしています。今年で三年目になり、支援は充実しつつあるものの、開設当初の支援や運営に対する私たちの考えは甘かったようで、考えていたよりはるかに大変です。

児童養護施設退所者の大学・専修学校等への進学率は二四・〇%で、全高校卒業生の進学率が七四・一パーセントであることを考えると非常に少ないのです。しかも、進学したけれど卒業できなかった子が多い。この学生たちを挫折しないように手助けしたいと考えています。

ハウスの入居者は、施設を出た子のほかに養育家庭（里親）から来た子もいます。親に今いる所が知られないように守ってほしいという学生も多いです。学生シェアターのような状態にもなっています。住所が知られないように、住民票の閲覧交付制限の支援に役所へ付き添っていくこともします。

生活支援の方法としては、小さな民家をリフォームしてシェアハウスの形式で住まいの提供を行っています。安全な住宅の確保に困難が多いと思われる女子学生が対象です。学生はハウスの二階に自分の居室を持ち、スタッフは子ども

もの邪魔にならないように手伝いをします。スタッフが、夕方から翌朝まで、常に泊まりでいるようにしています。しかしそのスタッフの確保がとても大変です。学生は体調不良になることもあり、一階に降りてこれられないほどのときもあります。そういう場合の医療機関への付き添いも、スタッフはします。

このスタッフを「ハウスアテンダント」と呼び、学生のさまざまな支援、食事提供も含めて行っています。大事なことは、自分の家から出かけて、帰ってきて、ご飯を食べるといった普通の生活を続けることだと考えています。今日いっしょに来ていた深田さんも、学校の講師でもありながらシェアハウスの泊まりもしてくれています。

学生の負担は、二食付きで家賃五万円です。この金額は、採算を考えてではなく、学生が家賃を出せるとしたらどれくらいかという専門の調査結果等も踏まえて、この額が妥当ということで決めています。門限、外泊の制限もあります。もっともこれは守るのがなかなか難しいのも事実です。退去については、①学校を卒業

した場合、②学校退学の場合、③ハウスの家賃を三カ月滞納した場合としていきます。一般的な賃貸住宅なら、家賃滞納で即退去とできるのでしようが、ハウスではそんなに簡単には退去させられず、退去後の生活の場の確保等も考えなければなりません。

開設までの取り組みを話しますと、シェアハウスは古民家を作り、リフォームして作り直しました。当初は福祉にかかわってきた方で準備していましたが、理想は語れるが現実は何をするのかという意見がなかなかでなかった。現実に強い一般的な企業に勤めてきた方にも入っていたら、進むようになりました。古民家のリフォームと同時に、学生支援ハウスのNPO法人とする申請等も行いました。

ハウスの運営にあたって大事だと考えているのが、「きまりと約束」です。学生に守られないのは意味がないので、開設当初は学生にも加わってもらい「きまりと約束」を考えました。「きまり」は、家賃など運営側が譲れない最低限のことです。簡単に変えられないが、「約束」は共同生活をすすめる人たちがお互いに気を付けましょうという合意です。これにつ

いては月一回程度、学生たちとハウス会議というのを開いて話し合い、適宜変更しています。

現在、公的な支援なしで運営していますが、運営経費が収入の何倍もかかっています。特にスタッフへのボランティア謝金や、元々築六〇年の家ということもあり家の補修等にかかる費用が大きいです。全体的にお金が非常にかかり、制度外で頑張るのも限界がきているかなとも思っています。

いま課題なのが、日中のスタッフによる支援です。泊まりのスタッフはいませんが、日中は誰もスタッフがいりません。精神面での問題や、飲酒など、対応には日勤のスタッフが必要になってきます。現在、シニア世代が頑張ってくれています。シニア世代があると思っ

（立教大学名誉教授）

【居場所づくり】シェアハウス運営の方針

すみれブーケは、児童養護施設等を退所後、生活していくなかで失敗したり、進学したけどつまづいたりしたときに、再チャレンジしたい若者を支援しています。その活動の中心がシェアハウスを運営することによる「若者の居場所づくり」です。居場所といっても、すみれブーケの運営するシェアハウスは、単に住居を提供するというわけではありません。

親がいても親に頼ることのできない若者、親との関係性を絶たざるを得ないなか社会で生きていく若者たちです。失敗したりつまづいたりしたときに、何が必要でしょうか。皆さんが、そうしたときに当たり前のようにしていること 家族にぐちったり、相談したり、泣いたり、怒ったり、怒られたり それが彼や彼女たちにはできません。そこですみれブーケは次のように考えています。 【2号からの抜粋】

■社会人と住むことを重視

すみれブーケは、若者がシェアハウスで社会人と共に住むことを重視しています。「ひとりではないよ!」と思ってもらえるように、すみれブーケは彼や彼女たちに寄り添っています。

●社会人と住むことのメリット●

- ・困ったとき相談できる。
- ・落ち込んだとき励ましてくれる。
- ・話を聞いてくれる。
- ・いつでも知りたいことを教えてもらえる。
- ・コミュニケーションをとること（一声かけること）の大切さを学ぶことができる。

■コーディネーターを配置

社会人と一緒に住んだからといって、必ずしもいつもうまくいくわけではありません。一緒に住むからこそ、つらいこともあります。そこで、すみれブーケではコーディネーターを配置しています。

●コーディネーターの役割●

- ・若者が相談したいときにすぐ相談に応じる。
- ・いっしょに住む社会人との関係調整を行う。
- ・暮らしの中でのルールの大切さを説明する。
- ・公的書類の書き方や提出方法・法律関係・お金の使い方・バイト先の手続するなど、社会的自立に向けたアドバイスやサポートを行う。

すみれちゃんとうつたくんという名前は、福音寮の子どもたちに考えてもらった多くの候補の中から、理事会でキャラクターに合うものを選びました。

キャラクターのデザインは少し悩みました。リアル感のあるキャラクターデザインにするか、動物や少し緩めのデザインにするか迷いましたが、悩んだ末に、アニメのデフォルメされたキャラクターにしました。デフォルメされたキャラクターデザインなら子どもにも、大人の人にも親し

若者による 若者支援

インにするつもりでした。



すみれちゃん

「すみれちゃんとうつたくんは、このキャラクターを見て「あつ、すみれブーケのすみれちゃんとうつたくんだー!」というえばこういう活動をしているキャラだよね」など、少しでも認知されやすいキャラクターデザインにするつもりでした。



うつたくん

このすみれブーケを若い人に知ってもらうためと、難しい文章などをわかりやすくイラストで理解してもらうために「すみれちゃん」と「うつたくん」を作成しました。

みやすいと思ったからです。

すみれちゃんは、パツと見て可愛いなと思えるようなデザインにし、うつたくんは、当初は髪型がもつと長かったのですが、女の子に見えてしまいそうだったので、理事会で検討した結果、髪を短くしました。目も細く少し鋭い感じだったので親しみやすく少し目を大きくデザインし直したり、何度も修正しました。

そして何よりも考えた